

発行所

真宗大谷派宗務所

代表者 木越 渉

編集／東本願寺出版(真宗大谷派宗務所出版部)
〒600-8505 京都市下京区烏丸通七条上る
TEL.075-371-9189(東本願寺出版)

購読料 無料

送料 1部1カ年1,300円

(1,182円+税10%)※部数により変動

振替口座番号 01000-6-27404

加入者名 東本願寺出版部

東本願寺公式YouTubeにて
さまざまな行事の様子を
公開しています。



東本願寺NEWS

検索

どうぼうしんぶん

同朋新聞

Dōbō Shimbun

12

Vol. 805

December 2024



真宗本廟鐘楼撞き初め式

今月の写真

2023年7月から行われていた鐘楼の修理工事が完了し、10月12日(土)に撞き初め式が執り行われました。先門首御命日遠夜法要前の刻限を知らせる鐘を、門首をはじめとした7人が撞き、修理の完了を祝いました。

(7面参照)

今月の法話 如是我聞

仏さまと真向いになる

三重教区三講組 相願寺

片山 寛隆(78)

ある日のお昼どき、たまたまファーストフードのお店に入りました。ガラス張りのお洒落な玄関の自動ドアが開き、中に足を踏み入れた瞬間、大きな声の「いらっしゃいませ」が聞こえてきました。同時に幾人かの店員さんがお仕事をされながら私の方を見ることがなく「いらっしゃいませ」が続いてありました。そして受付カウンターの前に行くと「ハイ、お決まりですか」という声がかウンター越しにありました。

何かその時、違和感というか、「何か変だな」という思いを感じたことです。

昔から他人に出会ったら、まずきちんとご挨拶しましょうとか話を聞く時は相手を見て聞くことが大切ですよと言われて育ってきたものです。相手と真向いになるということが相手を知ることであり、私を見ていただくことが私を知っていただくことです。

お給仕も同じです。仏さまにお仏供をお備えするということは、仏さまと真向いになるということ。それなくしてお給仕にはなりません。

毎日お給仕すれば、その日によって仏さまの顔が違って見えることに気づくはず。同時にそういう私をもまた、仏さまは見てくださっているということ。

「如是我聞」、「如是我見」はお給仕のころであります。

あなたの声が『同朋新聞』を作ります

より充実した紙面をつくるため、『同朋新聞』に関するアンケート調査を実施します。いつも『同朋新聞』を読んでくださっているみなさまの率直なご意見をぜひお聞かせください。



アンケートにお答えいただいた方の中から抽選でプレゼントが当たります！
※当選発表は、当選者の方のみ3月上旬までにご連絡します。※回答内容は『同朋新聞』の内容向上のために使用し、適切に管理します。



しめきりは
1月31日(金)
だよ！

みなさまからの
ご回答をお待ちして
おります！



回答はこちらから

A
コース

3組6名

編集者による東本願寺の
見どころ解説ツアー

諸殿でのお斎付き



B
コース

5組10名

東本願寺
諸殿での
お斎にご招待



C
コース

20名

東本願寺
オリジナル
グッズ



令和6年能登半島地震で被害に遭われました被災者の方々に対し、衷心よりお見舞い申し上げます

この紙面では、さまざまな人をととして、現代社会の抱える課題や人間そのものについて考え、宗祖御遠忌テーマ「今、いのちがあなたを生きている」、慶讃テーマ「南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう」の学びを深めていきたいと思います。



「食品ロス」をなくすために

一人あたり年間約38キログラム。この重さが何かというと、まだ食べられるのに廃棄される食品の量で、日本での年間総量は472万トンに及びます。世界的にも問題になっている食料廃棄。「食品ロス」をなくすことは「いのちを考えること」と言われる井出留美さんのお話から人間の相を考えます。



井出留美さん
インタビュー
食品ロス問題ジャーナリスト。株式会社office 3.11代表取締役。認定NPO法人おてらおやつクラブ監事。奈良女子大学食物学科卒業。博士(栄養学/女子栄養大学大学院)、修士(農学/東京大学大学院農学生命科学研究科)。著書に『捨てられる食べものたち』他。

被災地支援の現場で感じたこと

——井出さんが現在の活動を始めた経緯を教えてください。

最初のきっかけは2008年です。当時、私は日本ケロッグという食品メーカーで広報や栄養、社会貢献活動などに関する仕事を担当していました。その時にアメリカのケロッグ本社から、フードバンクという、商品としては流通できない食品を必要な方に届ける活動があることを教えてもらったのです。この活動は、1967年にアメリカで最初に始まり、ケロッグも30年近く前から食料の提供をしていました。そこで、日本でも廃棄しなければならぬ商品があるならばと日本で活動しているフードバンクの団体を紹介してもらい、2008年から日本ケロッグもそこへの寄付を始めました。

その後、2011年の私の誕生日に起きた東日本大震災が、直接的に深く活動に取り組みきっかけとなりました。3月に震災が起きて、社長から支援物資の手配を頼まれ、4月に現地へ行ったところ、同じ食品でも、メーカーが違っていると平等に配れないから配らないとか、避難所の人数に少しだけ足りず、平等に配れないから一つも配らないといったことが起きていました。「平等」という行政の原則に基づいて配布しようとした結果、せっかく寄付された食品が無駄になっていたのです。

もともと臨機応変に、柔軟に対応すればいいのに、食べられる食品を配布しないことに納得がいきませんでした。また、海外のケロッグからも支援物資の申し入れがあったのですが、海外からの救援物資の受け入れについて問い合わせをしたところ、さまざまな省庁や機関をたらいまわしにされてしまい、受け入れることができないというのです。

品ロスは減らさなければいけません。食べられるものは人にシェアする。あるいは食べられなくなったら、家畜の餌や堆肥にするなど資源として活用していかなければいけません。

なぜ食品ロスは起ころのか

——食品ロスの問題の根底には、消費者のエコや、食料不足への不安などがあり、食品ロスを増やすきっかけになっているのではないかと思います。

そうですね。コンビニは、本当に最たるものというか、いつもどこでも、何でも、好きなだけ商品が手に入るように在庫の調整がされますよね。

また一方で、最近米不足の問題が起きました。その時に買い占めた米を後で返品したいという申し出がお店にあったそうです。米がなくなるといふ不安から買い占めたけど、もう要らないから返品したい、といった自分勝手な行動ですね。

コンビニも便利ですが、公正取引委員会が2020年9月に発表した調査結果によると、大手コンビニ店舗が1年間に廃棄している食品の金額の中央値は468万円だそうです。これはあくまで中央値で、食品を廃棄しないように努力をされているオーナーさんもいらっしゃる。1ヵ月で100万円以上の食品を捨てているコンビニもあって、そういったお店だと年間1200万円を超えます。

でも考えてみれば、468万円という中央値の金額は、私たちの平均年収と同じくらいです。国税庁の発表によると、

日本人の平均年収は460万円です。で、1人が1年間働いてようやく得られるお金よりも多い額の食品が1店舗で捨てられているわけです。

日本国内にコンビニは5万5000店舗以上ありますから、一体どれだけの食品を捨てているのか。確かに消費者は、いつでも、どこでも、何でも、好きなだけ手に入るという便利さや効率を享受できているのですが、その裏側ではそれだけの資源を捨ててしまっている。特に日本は食料の自給率がとても低い国です。だからお金があっても買えない状況が、米不足では起ったわけですね。お金がいくらあっても、ものがなければ買えません。

また、ウクライナの戦争で港が封鎖された時に、収穫した小麦を輸出できませんでした。戦争や紛争が起けると、食料を手でできないことも起きるんです。それは現地だけでなく、戦争状態でない国にも影響します。それ以降、食料価格が上がり、肥料や飼料なども高騰して、農業や酪農業を辞める人が増えている。食品を捨てている場合じゃないんです、本当は。

私たちが便利さを享受する裏側には、やはり責任があります。1982年に国際消費者機構が「消費者の8つの権利と

食べものからいのちを考える

——井出さんの著書の中には、食品ロスについて考えていくことは、いのちを考えることにもつながっていくということも書かれていますね。

はい。学校給食でも食べ残しや牛乳の飲み残しが問題になっています。私の知り合いの学校栄養士をしていた方は牛乳の飲み残しが多量にも多かったんです。小学校にウシを1頭連れてきたそうです。そして生徒全員にウシと牛乳について学ぶ時間を設けて、乳しぼり体験やウシに実際に触れる体験などを行いました。牛乳を1リットル生み出すためには、ウシの血液400リットル分が使われていることを示すために、2リットルのペットボトルを200本用意して、赤い絵の具を溶いて血液に見立てて、ウシがどれだけ頑張っているのかということを伝えたりしたところ、牛乳の飲み残しが激減したそうです。それまでは子どもたちにとって牛乳は単なるモノだったと思うんです。生産の現場を見なければ、全部モノなんです。でも、生きているウシを見て、いのちを絞り出して牛乳がきているん

——私たちはモノを食べているのだから、いのちを食べているのと同じようにリアルを感じることが大切ですね。最後になりますが、食品ロスという問題に対して、私たちにできることはなんですか。また、お寺としてなにかできることはあるでしょうか。

私たちが身近にできることという、基本的なことですが、冷蔵庫に入れる量を全体の5割から7割ぐらいに収めて、食品を循環させていくことでしょうか。著書で「冷蔵庫を便秘にしない」と書きましたが、循環することで中が見えやすくなり、無駄がなくなります。他にも、買い物をする前に買い出しリストをつくって、無駄な買い物をしないことが大切です。お寺であれば、消費しきれないほどのおそなえ物があるお寺もあるかと思いますが、それを仏さまのお裾分けとして、必要な方にシテをする仕組みとして「おてらおやつクラブ」がありますね。「おてら



食品ロス問題に関する視察で世界各地を訪ねる

日本国内でも違いますから、当然国によっても違ってきます。

食品ロスという問題について、日本では、1980年ごろから京都市や京都大学が家庭から発生する食品ロスの調査をしていました。その後東日本大震災や、2015年の「生活困窮者自立支援法」の施行でフードバンクが注目されたことで「食品ロス」という言葉の認知が広がってきていると思います。

世界的には、2015年に国連サミットで採択されたSDGs(持続可能な開発目標)の17ある目標の中の12番目に「つくる責任使う責任」があります。その中で小売りや消費レベルで発生する世界の食料廃棄を2030年までに半分に減らすという数値目標が定まったことで、大きな問題として取り上げられるようになりました。

特に最近では、気候変動と食品ロスは大きな関係があるということで、より注目されています。山火事や大雨など、自然災害が世界中でも毎年発生していま



おてらおやつクラブ
代表理事松島靖朗住職と井出さん

おやつクラブ」の賛同寺院も2000カ寺を超えましたが、まだまだ「コンビニ」よりも多い数のお寺が日本にはありますので、少しでも、そうやってシェアをすることが進んでいくようなと思います。

——今回、井出さんのお話をお聞きして、シェア・分配していくということ、そして食料について考える視座を持つことの大切さをあらためて教えていただきました。ありがとうございます。

(了)

井出さんの最新刊

お寺に寄せられるおそなえものを、仏さまからのおさがりとして全国の子どもたちに送る活動をしている「おてらおやつクラブ」。お寺と社会の「ある」と「ない」をつなぐ活動はどのように広がっていったのか。その原点と10年の歩み。



『おてらおやつクラブ物語
子どもの貧困のない社会をめざして』
井出留美 著
定価:1,760円(税込)
旬報社 刊

通信員リレーリポート

第253回
いまを生きる

仲間を紡ぐことの大切さ

九州教区熊本西組
善宗寺門徒

園田 啓一さん(80歳)



園田さんご夫婦

日本全国のご門徒の方々や各地で開かれている同朋の会を紹介します。



「蓮の会」の様子

熊本県宇土市に住む園田啓一さんは、信仰に篤い両親のもとに育った。母は仕事の傍らお手次寺の婦人連盟の会長を務め、父は目が見えない中でもカセットテープを



受け継いだ勤行本

聞きながら、お内仏の前で欠かさず「正信偈」のお勤めをしていたという。ご両親から赤本(真宗大谷派勤行集)を受け継いだ園田さんは、日々お内仏にお参りをしておられる。父が教員だったこともあり、大学卒業後、高校の教員として働く中で「仲間を紡ぐことの大切さ」に出遇(あ)われた園田さん。転勤先の学校で、関係各所との話し合いがうまくいかず、中止の危機にあった創立記念事業を、何度も対話を重ね、協力関係を密に深めたことで

成功に導いた。この経験から、仲間を紡ぐことの大切さを肌でひしひしと感じたそうだ。

園田さんは、現在「蓮の会」の会長をされている。「蓮の会」は推進員が集う勉強会で、講師を招き「正信偈」や「御文」などを学んでいるという。お手次寺の前住職の勧めで推進員養成講座を受講した園田さんは、「蓮の会」に参加し、役員を経て、2020年から会長の職を担っておられる。

最初は右も左もわからず、どのような講話や座談にすればよいかなど、悪戦苦闘の連続であった。現在は、21年続く「蓮の会」を次の世代につなげていくために、参加者それぞれに信仰の心が生まれてほしいと、仲間とともに試行錯誤を繰り返し、これからの「蓮の会」や後に続く人のことを日々考えておられる。その中で「何をするにしても一人じゃ何もできないが、仲間とともに汗を流し、共通意識を持ちながらやっていくことが一番大事」と熱く語られた。

園田さんのお話を聞き、今日まで続いてきた信仰を伝えていく難しさもあるが、過去の「仲間」が今につないでくれた信仰を私たちが受け継ぎ、未来の「仲間」がこれからもつないでいてくれることが、私たち一人ひとりにとっての小さな光であり、道標であるのだと感じた。

九州教区通信員
竹崎 桂一



お寺の掲示板
第16回

お寺の掲示板に込められたさまざまな願いを、今月の言葉と一緒に毎月お届けします。



ほうぜん じ
法善寺(東北教区 山形第5組)
山形県東根市猪野沢307
住職 須藤 慧成

うまくいけば
先祖のおかげ
間違えれば
先祖のたたり
私の都合で
先祖を供とし
鬼とする

お寺に足を運んだ際、お墓参りはされても、本堂のご本尊へのお参りはついでになっていませんか？
昨今、墓じまいや仏壇じまいが増えてきました。その時になってふと考えます。ご本尊とは何だったのでしょうか？ 私たちはどこに掌を合わせているのでしょうか？ 法語に触れて一緒に考えていけるご縁になればと思います。の言葉を選びました。



@HOSHINAWA_HOZENJI

法善寺の掲示板は多くの方の目にとまるように、駐車場に面し、すぐ脇の道路からも見えやすいように設置されている。「掲示板を見た方が、法語に触れご自身にも目を向けるきっかけになればうれしい。また、本堂までお参りに来るご縁となつてほしい」と住職の須藤慧成さんは語る。住職に就任して最初に取り組みたいと思ひ立ち、4年前から法語を書いている。日頃の自分の生活と照らし合わせながら、何かを教えるというより、自分自身で考えるきっかけとなるような法語を選定しているという須藤さん。ふとした時に響いてくるような言葉選びを大事にしているという。法語の感想を頂くこともあり、「私も勉強になり、一緒に感動させてもらっています」と話す須藤さんからは謙虚さが伝わる。
法善寺の近隣は過疎化が進み、市街地や遠方に住むご門徒も増える中、「お寺に足を運ぶことが少なくなっても、門徒であることに変わりはないのではないか。時代が移り変わっても人に寄り添えるような場所でありたい」と寺報やSNS等も利用しお寺から発信し続ける姿からは、思いを伝え継続していくことの大切さを感じた。

東北教区通信員
佐々木 智悠



東本願寺出版の
書籍は書店でも
お取り寄せてできます



真宗聖典 第二版

好評発売中

大判 定価 4,950円(税込)
小判 定価 4,400円(税込)

秋のブックフェア

開催中

12月31日(火)まで

「法語カレンダー-2025年版」
「今日のことは2025年版」を
同時に購入でオリジナルの
しおりをプレゼント!!



数量限定
オリジナルしおりプレゼント

東本願寺御用達

日下念珠店

〒600-8174
京都市下京区烏丸通花屋町下ル
電話 (075)351-6325
フリ-FAX 0120-89-5255
定休日：日曜日

宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌記念
紅地天人之図総手刺繍御打敷謹納

〒600-8159 京都市下京区烏丸通東本願寺前
TEL フリーダイヤル 0120-07-6391
FAX フリーダイヤル 0120-34-2816
<https://shibata-houiten.com/>
(Webカタログ掲載・商品動画配信)

真宗大谷派 東本願寺御用達 京法衣事業協同組合加盟店

株式会社 柴田法衣店

親鸞聖人^{りゅうじゆ てんじん}がお念仏の教えを自分のところまで届けてくださった師として、生涯大切に仰がれた方々がいます。「七高僧^{しちこうそう}」と呼ばれるインドの龍樹^{りゆうじゆ}・天親^{てんじん}、中国の曇鸞^{どんらん}・道綽^{どうしゃく}・善導^{ぜんどう}、日本の源信^{げんしん}・源空^{げんくう}(法然)^{わこく きようしゆ}。そして「和国の教主^{わこく きようしゆ}」と仰がれた聖徳太子です。親鸞聖人は彼らからどんな「ひかり」を受け取られたのでしょうか。曇鸞について、3回にわたってたずねています。



ひかりを 曇鸞大師と聖徳太子

第12回

曇鸞大師^{どんらん だいに}

罪障^{ざいしょう}功德^{くどく}の体^{たい}となる

こおりとみずの

ごとくにて

こおりおおきに

みずおとし

さわりおおきに

徳^{とく}おとし

〔高僧和讃〕

『真宗聖典 第二版』五九四頁

【現代語訳】

罪や障りが功德の本体となるのだ。それは、ちょうど氷と水の関係のようであって、氷が大きいと、そこからとけだしてくる水も多くなるものだ。同じように、罪や障りが大きいので獲^えられる功德も多いのだ。

私は苦しんでいる

真宗に限らず、仏教の文章を読むと、「私は罪深い」「罪悪深重^{ざいあくしんじゆう}」といった表現をよく見ます。ここでの「罪」とは法律を犯したことを指しません。それだけに、実感を持ちづらいものがあります。

私に罪障(罪や障り)があるとはどういうことなのでしょう。少なくとも、そのように感じるときには私が苦しんでいるということは事実です。

仏教が基本とする縁起という考え方は、「結果には必ず原因がある」というものです。苦しみという罰を受けているならば、必ずその原因があります。しかし、大抵の場合、その原因には心当たりがありません。「どうして私がこんな目にあわなくてはならないのか」といった言葉は、現在でも苦しみの表現としてよく聞きます。むしろ、その原因がわからないから苦しいのです。その心当たりがない原因を「罪障」というのでしょうか。

私は苦しんでいるということの確かめが、仏教の出発点なのです。

淤泥華^{おでいけ}

『維摩経^{ゆいまきやう}』に、「淤泥華の譬え^{たと}」と呼ばれる一節があります。天親菩薩は、『浄土論』の中でこの譬えを取りあげています。蓮華という花は、乾燥した清潔な高原には生えることすらできません。蓮華が花咲くのは、肥沃な湿地です。蓮華は、さとりを象徴します。また、臭い汚泥(淤泥)は煩惱の譬えです。泥の臭い

は、決して喜ばしいものではありません。しかし、強い臭いは豊富な養分を示します。汚泥があればこそ大輪の素晴らしい蓮華が咲くのです。

曇鸞大師はここに注目し、『浄土論註』で解説しました。清浄な世界があるとしても、煩惱具足^{ぼんずく}の私には無関係と感ずります。しかし、私が清浄な世界に生まれ得る道理が、ここに示されていたのです。

氷と水

曇鸞大師のこの指摘は、親鸞聖人にとっても大きな衝撃でした。

さらに、親鸞聖人は、その煩惱とさとりを、罪障(苦しみの原因)と功德の関係にあらためて譬えます。苦しみのただ中にいる者にとっては、淤泥に譬えられる煩惱は漠然としており、蓮華に譬えられるさとりは縁遠く感じられがちです。親鸞聖人は、罪障という私の具体的な事実^{じつじ}に立つて表現しました。それは、仏教の出発点に立ち返ることでありました。

氷は、とけない限り、水として使えません。しかしながら、氷が大きいほどとけだす水は多くなります。当然の道理ですが、ひかりに遇^あわなくてはそれに気づくことも難しいのです。



わけみ あきら
采翠 晃
大谷大学文学部
仏教学科教授
京都教区近江第25西組
長光寺住職

ご本尊のある生活

浄土真宗のご本尊は、いつでも、どこでも、誰をも、もらさず救うはたらきをかたちどったお姿です。そのお姿にはさまざまな特徴があり、その特徴をもって私たちに仏さまのはたらきを伝えてくださっています。今回は、絵像のご本尊のお姿をとおして、仏さまの願いをたずねます。

お姿の特徴と表されているはたらき

立ち姿

私たちに向かって歩み出そうとするかのようなお姿は、苦しむ私たちを救おうとする阿弥陀如来の心を示しています。

阿弥陀如来の手の形は「**摂取不捨印**」といい、人々を救いとして決して捨てないという慈悲の心を表現しています。

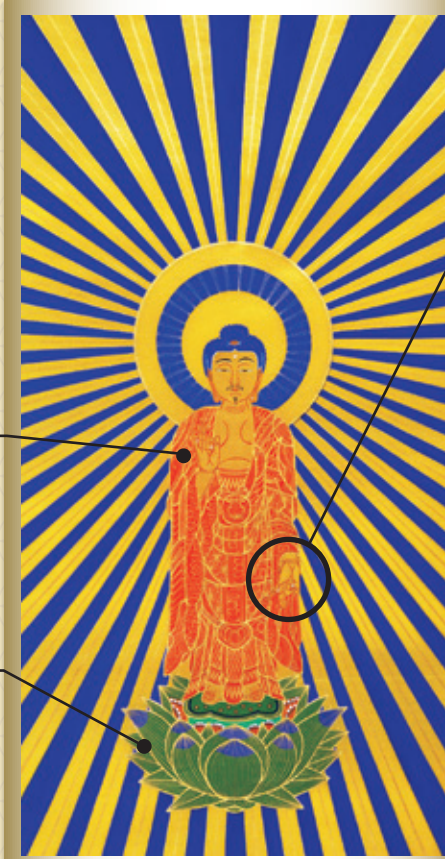
手の形

蓮華

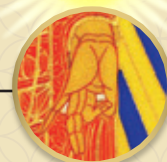
阿弥陀如来がどのような世界に立っておられるかを示します。蓮が泥の中で美しい花を咲かせるように、阿弥陀如来が苦悩の中の私たちを照らし出す様子を表しています。

阿弥陀如来はすべてのものを照らし出す光そのものであることを表しています。

後光



さんじゅう に そう
三十二相
はちじゅういぎようこう
(八十随形好)



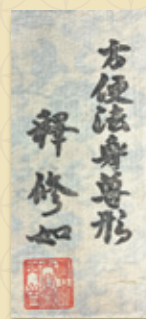
仏の姿には、32の顕著な特徴と、80の細微な特徴があるといわれています。

例えば、手足の各指の間に、鳥の水かきのような金色の膜があります。これは、すべての衆生を救いとる姿を表します。

裏書

本山から授与されるご本尊をはじめとした授与物の裏には「**方便法身尊形**」と書かれています。「方便」とは、「導き」という意味です。阿弥陀如来には本来すがた形はありません。しかしそれでは私たちはどこを向いて心を寄せればよいのかわからなくなってしまいます。私たちのために、形となって現れてくださった尊いすがたが「方便法身尊形」なのです。

また、門首が授与したことを表す門首の法名と、「真宗大谷派門首」という奥印があります。



きりがね 本山認定絵師・截金師の方々によって描かれるお姿

絵師

ピンと張った絹の布に色が重ねられていく

※150代を調製中です。



使用される道具

截金師

截金細工のご本尊は、線状に切り出した純金箔が貼られ、より浮き出て見える



切り出した純金箔

ご本尊に手を合わせるということは、守り神や願い事を叶えてくれる存在として拝むのではなく、本当に大切にしなければならない尊いことを見失わずに生きてほしいという仏の願いをいただくということです。

みなさんのお宅に、手を合わせる場がありますか？生活様式、住宅事情の変化なども相まって、ご本尊に手を合わせる事が難しい時代なのかもしれません。

本山では、そのような状況であっても、手を合わせる生活を送っていただけるよう住宅状況に応じたご本尊がございます。

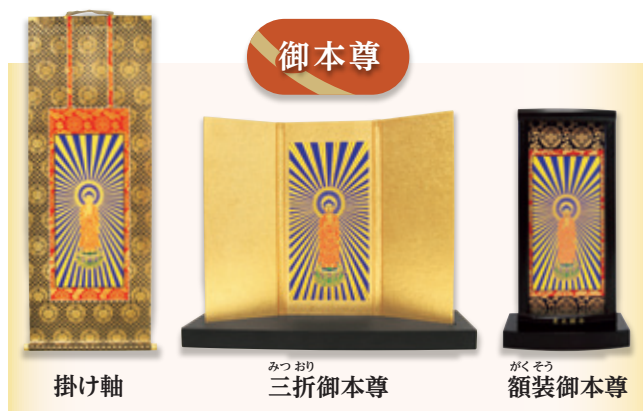
まだお受けされていない方はぜひ。そして、さまざまな理由で実家を離れていかれたご家族の方へも、ご本尊を手渡していただき、「ご本尊のある生活」をともに送りましょう。



真宗大谷派では、以下の

御本尊・お脇掛をお受けいただけます

御本尊

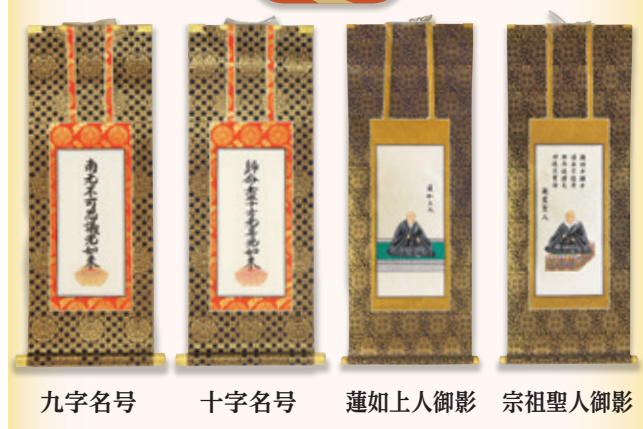


掛け軸

みつおり
三折御本尊

かくそう
額装御本尊

お脇掛



九字名号

十字名号

蓮如上人御影

宗祖聖人御影

大きさ・礼金等の詳細、
またお給仕についてはこちら



御本尊・お脇掛等、授与物をお受けになられたい方は、
本廟部 (TEL:075-371-9210)

または 最寄りの教務所までお問い合わせください。

「鐘楼」修理工事の完了 並びに「撞き初め式」執行

2023年7月から開始された鐘楼の修理工事が2024年9月30日に完了し、10月12日に「撞き初め式」が執り行われた。

現在の鐘楼は、1858(安政5)年の大火による焼失の後、名古屋の神野金之助とその両親の寄進によって1894(明治27)年に再建された。屋根は入母屋造の檜皮葺で、撞鐘を吊り下げる梁材は、撞鐘の荷重を柱に伝えるようにX字に掛けられるという独創的な工法がとられている。1981(昭和56)年に屋根の葺き替え工事を行ったが、本格的な修理は再建から約130年が経過した今回が初めてとなった。

このたびの修理では、全面的な屋根の葺き替えを中心に、鋳金具の補修工事、木部の補修工事を実施した。撞き初め式には、大谷暢裕門首・木越渉宗務総長をはじめとした宗派関係者、来賓として修理工事を担当した施工業者の代表者や修理にあたりご寄付いただいた方など約80人が出席した。まず、長峯顕教財務長の調声による勤行の後、宗務総長と株式会社奥谷組代表取締役社長から挨拶があった。その後、先門首御命日逮夜法要前の刻限を知らせる鐘を、門首をはじめとした7人が撞き修理の完了を祝った。



なお、重要文化財修理として計画している3棟の内、最後となる手水屋形は2025年3月の完了を予定している。



重要文化財(手水屋形)の修理のご寄付を募っております

東本願寺 保存修理工事

検索



京都教区発足式開催

10月7日、京都教区常磐会館にて「京都教区発足式」が執り行われた。既報のとおり、本年7月1日から新京都教区が発足していたが、選出教区議員の定数を28人から13人に減員することを年度当初の教区会で可決したため、新教区発足後に選出教区議員の総選挙が施行されたことによる。

発足式に先立ち開かれた、教区会(臨時会)では、新たに選出された13人の教区会議員を迎え、あらためて教区会正副議長、参事会員が互選され、新教区のすべての組織が整った。

発足式では、100人を超える参加者でお勤めした後、宮戸弘教務所長の挨拶に引き続き、那須信純参務が祝辞を述べた。

その後、黒田進氏(京都教区満立寺)より、「とも 同朋」と題して記念法話があった。黒田氏は、「私たちは「共学」「同朋」という言葉を冠する研修会を教区で開催しながらも、真に「出会い、交流」する場と時をいただけたと、心の底からうなずけない現実を抱えているのではないかと語りかけた。また、『寂靜処にして道場を莊嚴して(化身土・末)』の文を紹介し、莊嚴とは創造であり、私たち一人ひとりが意欲をもってサンガを創造していくことが、新教区の教化に願われていると確認した。

さらなる「出会いと交流」が願われる新教区の発足にあたり、今後の歩みとともに確かめ合う機縁となった。



お知らせ

第59回「京の冬の旅」特別公開

京都の文化財などの魅力を伝え、ゆっくりと観光を楽しんでいただくためのキャンペーンとして、第59回を迎える「京の冬の旅」。東本願寺は本年も協力します。

今回、東本願寺では「宮御殿」・「桜下亭」を特別公開し、重要文化財である東本願寺諸殿を僧侶が案内します。

この機会にぜひご拝観ください。
(主催:京都市・京都市観光協会)

「京の冬の旅」
の詳細は
こちら →



期 間

2025年1月10日(金)~3月18日(火)

公開内容

- 「宮御殿」・「桜下亭」特別公開
【時間】1月・2月 10:00~16:00 (最終受付 30分前)
3月 10:00~16:30
【料金】800円
- 僧侶の案内による東本願寺諸殿案内
【期日】開催期間中の毎週金・土曜日
【時間】9:00~10:10 / 15:30~16:40
【料金】小学生以上2,200円 ※事前予約制
【案内コース】宮御殿・桜下亭・能舞台(外観)



「渉成園十三夜」 開催

レポート

10月15日、真宗本願飛地境内地の渉成園でお月見の会「渉成園十三夜」が開催され、約200人が参加した。お月見は十五夜が有名だが、旧暦の9月13日にあたる十三夜も平安時代から日本で親しまれてきた。

昨年に引き続き、月明りの庭園散策やお茶室「蘆菴」の特別公開に加え、閨風亭内では、アンビエントミュージックの生演奏やお月見にちなんだ軽食やドリンクが提供された。開園前から待ち並ぶ方もおられ、蘆菴や閨風亭はお月見を楽しむ方で溢れた。

曇り空ではあったが、時折顔を覗かせる月を待ち構えて写真におさめる方や、印月池の水面に映る月を眺めている方など、それぞれの「お月見」を楽しむ姿が見られた。



救援金のお願い

宗派では、「令和6年能登半島地震」に対する救援金を勧募しています。皆さまからの温かいご支援をお願い申し上げます。

救援金
口座

郵便振替口座番号 00920-3-203053

加入者名

真宗大谷派

※通信欄に「令和6年能登半島地震」とご記載ください。

救援金
総額

241,677,814円
(2024年10月31日現在)

読者のお便り

サルスベリの木



茨城県つくばみらい市
なかむら かず こ
中村 和子(76歳)

「いのちの樹」(『同朋新聞』2024年9月号1面)の「いとおしさとともに畏敬の念すら湧いてくる」という言葉に、我が家の庭の木を想いました。

もともと敷地内に生えていたサルスベリの木を、庭をつくるために義父が切り、上に大きい石を置いたらいいのですが、50年位過ぎ、石を割りニョキニョキとサルス

ベリの木が芽を出してきました。真っ白いサルスベリの花が、今では見事に咲きます。

あまり大きくなってもらっては困ると、何度か切っているのですが、そのたびに出てきて花を咲かせるのです。岩をも砕くその生きる力に感動し、毎年手を合わせてしまします。

石を割り植えるサルスベリ



お便り募集

『同朋新聞』の感想をはじめ、日々の思いなどをお寄せください。

宛先

Eメール/shuppan@higashihonganji.or.jp FAX/075-371-9211
〒600-8505 京都市下京区烏丸通七条上 東本願寺出版『同朋新聞編集係』

◆住所・氏名・年齢・電話番号を明記してお送りください。
紙幅の都合上、掲載時は添削・抜粋させていただく場合があります。

一般入試 12月18日(水)出願開始

試験制度	出願期間	試験日	合格発表日
第1期	12月18日(水) 1月17日(金) 締切日消印有効	2月4日(火) 2月7日(金) ※詳細は大学HPへ	2月15日(土)
大学入学共通テスト 利用入試	12月18日(水) 1月22日(水) 締切日消印有効	1月18日(土) 19日(日) (本学での個別学力試験等は課しません)	

[第1期]は東京、金沢、名古屋、彦根、大阪、神戸、広島、高松に学外試験場を設けます!

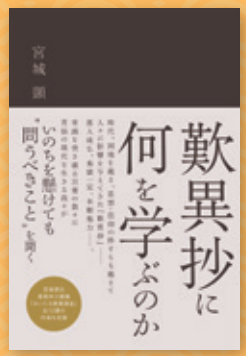
入試情報
資料請求は
こちらから



お問い合わせ: 入学センター
〒603-8143 京都市北区小山上総町
TEL: 075-411-8114(直通)

Be Real
寄りそう知性

大谷大学



歎異抄に 何を学ぶのか

私たちがいのちを懸けても「問うべきこと」は、一体何か...著者最晩年の講義をここに書籍化。

宮城 顕 著
四六判 328頁/
定価: 2,200円(税込)



煩悩百八面相

煩悩がわかると、断つ道すじもわかる!
梶 哲也 著/今村 風子 絵
文庫判 120頁/定価: 770円(税込)



仏教ゆかりの生きもの図鑑

生きものたちの姿が織りなす仏教の世界へ
福田 琢 著/大島 加奈子 絵
B5変形判 80頁/定価: 1,210円(税込)

12月10日
発売

オールカラー

東本願寺出版
HIGASHI-HONGANJI PUBLISHING



東本願寺出版の書籍は書店でもお取り寄せできます



真宗門徒として帰敬式(おかみそり)を受けましょう

ご案内

真宗本廟

開門・閉門時間／3月～10月:5時50分～17時30分
11月～2月:6時20分～16時30分

晨朝(おあさじ)

【場所】阿弥陀堂及び御影堂
【時間】毎日7時～

晨朝法話

【場所】御影堂
【時間】毎日7時30分頃～

真宗本廟法話

【場所】視聴覚ホール・御影堂・参拝接待所仏間
【時間】通常 10時10分～／13時10分～
速夜日(12・27日) 13時10分～
御命日(28日) 9時30分～
※その他、時間・会場を変更する場合があります。

参拝接待所ギャラリー

【時間】9時～16時
人権週間ギャラリー展(12月4日～25日)
修正会展(12月27日～1月14日)



詳しくは →

東本願寺

検索



しんらん交流館

真宗本廟(東本願寺)へご参拝の際には、
ぜひお立ち寄りください。
開館時間／9時～17時
休館日／毎週火曜日、12月27日～1月7日

12月の定例法話

【時間】毎日14時(12日は10時～)
※休館日、12月20日、1月8日・9日は休会。
その他、都合により休会する場合があります。

12月の東本願寺日曜講演

【時間】9時30分～11時
【講師】12月 1日 松下 俊英氏
(教学研究研究所員)
12月 8日 白山 勝久氏
(東京教区西蓮寺候補衆徒)
12月15日 武田 未来雄氏
(教学研究研究所員)
12月22日 大舩 啓氏(大谷大学講師)

交流ギャラリー

「お釈迦さまとその風景」展(12月4日～)

詳しくは →

浄土真宗ドットインフォ

検索



2024年度

真宗本廟奉仕に
参加してみませんか

真宗本廟奉仕を機にぜひ帰敬式を受式ください

おみがき奉仕団

春の法要を迎えるにあたって、真宗
本廟内の仏具のおみがきを中心と
した奉仕団です。

2泊 2025年
3月2日(日)～4日(火)
1泊 2025年
3月2日(日)～3日(月)

春の法要奉仕団

宗祖親鸞聖人の御誕生を縁とした
親鸞聖人御誕生会(音楽法要)や全
戦没者追弔法会等の「春の法要参
拝」を中心とした奉仕団です。

2泊 2025年
4月1日(火)～3日(木)
1泊 2025年
4月1日(火)～2日(水)

【参加費】〈2泊3日〉18,000円、米2kg(1升4合)または米代1,300円
〈1泊2日〉13,000円、米1.2kg(8合)または米代800円
※上記は大人(15歳以上)の場合です。

※申込締切は各入館日の40日前です。

お申し込み・
お問い合わせ同朋会館・研修部
TEL:075-371-9185

入館中はお仲間や
他団体の方々とカフェ
(無料)でほっこり♪

今月号の『同朋新聞』を読んで、
クロスワードパズルを完成させよう!

プレゼント付

タテのカギ

- 「読者のお便り」今月のタイトルは「〇〇〇〇りの木」です。(7面)
- 「人間というのちの相」私たちはモノを食べているのでなくて、いのちを食べている、そのように〇〇〇〇を感じる事が大切ですね。(2・3面)
- 親鸞聖人が〇〇〇〇つの教えを自分のところまで届けてくださった師として、生涯大切に仰がれた方々がいます。(5面)
- 真宗門徒として帰敬式(お〇〇そり)をうけましょう。(7面枠下)
- 「現在を生きる」今月のタイトルは「仲間を〇〇ぐことの大切さ」です。(4面)
- 「特集」浄土真宗のご本〇〇は、いつでも、どこでも、誰をも、もらさず救うはたらきをかたちどったお姿です。(6面)

ヨコのカギ

- 「ひかりを伝えたひと」今月の和讃は「罪障功德の体となる こおりとみずのごとくにて こおりおおきにみずおおし 〇〇〇おおきに徳おおし」です。(5面)
- 「縁一お寺の掲示板」今月の言葉は「うまいければ先祖の〇〇げ 間違えれば先祖のたたり 私の都合で先祖を佛とし鬼とする」です。(4面)
- この紙面に関〇〇お問い合わせは真宗大谷派宗務所 財務部(Tel:075-371-9186)へ(6面枠下)
- 「人間というのちの相」一人あたり年間約38キログラム。この重さが何かというと、まだ食〇〇〇るのに廃棄される食品の量です。(2・3面)
- 「ご案内」おみがき奉仕団とは、春の法要を迎えるにあたって、真宗本廟内の〇〇〇のおみがきを中心とした奉仕団です。(8面)
- 「今月の法話 如是我聞」今月のタイトルは「〇〇〇〇と真向いになる」です。(1面)

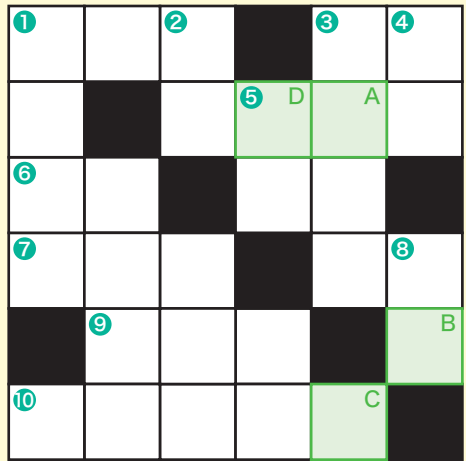
読者のこえ

9月号を
読んで

◆「今月の法話 如是我聞」「晴れの日には枝が延びる
雨の日には根が伸びる」なんとなく過ぎす日々にあらためて
教えられ胸に沁みる言葉でした。(京都府70代)

◆「人間というのちの相」自分の人生の中で2、3年後を考える事はあっても、
次世代の事を考えるのはぎっかけがないと忘れがちですが、今自分が何の
為に生きているのかを考えて行動していきたいと思いました。(岐阜県20代)

「タテのカギ」「ヨコのカギ」それぞれの設問に答え、
クロスワードパズルを完成させましょう! 12月号の
『同朋新聞』を読むと、ほとんどの答えがわかります!!



10月号のクロスワードパズルの答えは、

あ
ぎ
い
ろ

答え



※答えはすべて「ひらがな」でお答えください。

正解者の中から抽選で3名様に「東本願寺出版オリジナル図書カード1,000円分」、2名様に月刊『同朋』をプレゼントします!

郵便はがきまたはメールにて、①「クロスワードパズルの答え」②「郵便番号」・「住所」・「氏名」・「年齢」・「電話番号」と③『同朋新聞』の感想や紙面に関する要望を添えて、右記までご応募ください。今月号の締め切りは1月10日(金)(当日消印有効)です。

〈ご注意〉◆当選者の発表は、発送をもって代えさせていただきます。◆個人情報はプレゼントの発送および紙面づくりの参考に使用し、それ以外の目的には使用しません。◆感想は「読者のお便り」や「読者のこえ」に掲載する場合があります。◆本クロスワードパズルは、独自のルールに基づいて作成しております。

宛先

〒600-8505
京都市下京区烏丸通七条上る
東本願寺出版
「クロスワードパズル係」まで

メールでも応募できます!

はがきと同様に必ず左記①②③を記入し、
「件名」に「同朋新聞12月号クロスワード応募」
と入力の上higashihonganjishuppan
@gmail.comへお送りください。

応募は
コチラ

伝統の技を一堂に…

京仏壇ミュージアム

京都へお越しの際はぜひお立ち寄りください。(京都本社5階)



お仏壇・仏具はやっぱり京都! 合掌の心と共に195年

◆お仏壇・お仏具の事なら何でも
お気軽にご相談ください。

☎ 0120-37-8585 各店共通

創業天保元年 伝統工芸 京仏壇・京仏具
株式会社 若林佛具製作所

文化財修理 社寺内装・外装工事

株式会社 若林工芸舎

https://www.wakabayashi.co.jp/

お内仏を中心とした生活・帰敬式実践運動のさらなる展開を願って…

【真宗大谷派 ご推奨品】

三折御本尊用 御厨子 価格 49,500円(税込)

※上記価格に三折御本尊、仏具は含まれておりません。
※荷送料は別途です。
※写真は別売りのAセット(12,650円・税込)仏具入りです。
※価格はいずれも税込です。

- 仕様:木製外回り内部各段扉など黒塗り仕上げ内部三方板金色仕上げ、扉には打掛金具打ち(金メッキ)小型三折御本尊用黒塗り台付(高さ4.5cm)
- 寸法:屋根張30cm 下幅27cm 奥行18.5cm 高さ37.5cm
- ◆全国各教務所様、並びに弊社本支店に現物見本がございます。
◆パンフレット・資料をお送り致します。ご請求ください。

京都本店 〒600-8218 京都市下京区七条通新町東入
築地店 / 札幌店 / 仙台営業所 / 福岡営業所若林仏具製作所オンラインショップ
https://www.wakabayashi-jiin.com/荘厳仏具から内装・納骨壇まで、全国・宗派対応いたします。
お買い物にお得なクーポン配布中!

東本願寺ホームページで『同朋新聞』がお読みいただけます

同朋新聞

検索